



**Q** 低学年の子供には、どう関わればいいですか？

**A** 親には何でも話しますので、よく聞いてあげると安心して外に向かえます。

小学校は異年齢の大集団の社会で、それまでとは環境が大きく変わります。子供にとって、すべてが新しい経験ですから、お母さんをつかまえてたくさん話をしたくなります。大人を疑わず、親にはまだ何でも話したがる年齢で、聞いてもらうことで子供の情緒が安定します。低学年は親子のコミュニケーションを通して絆を強め、人格形成をしていく時期です。

●親子関係が土台

「今日はどんな楽しいことがあったの」「どんなお勉強したの」と聞くと、子供の頭の中は、楽しかったことや面白かったことをフル回転で探し出そうとします。こうした会話が子供の興味や関心を広げ、生活や勉強の意欲にもつながります。

小学校1年のときは、友達の家族の不幸に同情できなくても、6年生になると友達のことを思っ

て涙を流すようになり、感性が豊かになります。親をよく見ていて生活習慣や善悪の判断も親から学びます。よく「親の言うことは聞かないで、親のすることはまねる」と言いますね。

思春期になると次第に親離れしていきますから、「もう小学生だから」ではなく、小学生の時期こそ親子の触れ合いを深めましょう。

**Q** 小学生になるのに甘えて困ります。

**A** 9歳までは十分に甘えさせましょう。

子供が親に甘えられるのは「期間限定」です。高学年から「心の離乳期」になりますから、昔から言われるように「つ」が付くまでは、甘えを受け入れてあげたいもの。一つ、二つ、……九つで、9歳までは、十分甘えさせることが親子の心の通りを

よくします。

これが不十分だと後で問題が出てきます。甘えたいときにがまんすると、思春期に親に変化球を投げてきて、こじれたりするのです。

子供が甘えてきたタイミングで受け入れてあげると、親の愛

情が最もよく伝わり、子供の自尊心も満たされます。できるだけ面倒がらずに対応してあげましょう。子供は外でがんばった分、家で甘えて、バランスをとろうとします。不安や寂しさで親に構ってほしいのですから、カンを働かせて対応すればいいでしょう。

●甘えが心の通りをよくする

「甘やかし」と「甘え」は違います。子供が望んでもいないのに、大人が先回りして世話を焼くことが甘やかしで、子供が望

んだように応じることが甘えです。「寒いから着せて」と子供に言われて、着せてあげても自立を妨げません。反対に、子供が望んでもいないのに厚着させるのは甘やかしで、度を超すと過干渉になります。これが一番いいません。

しかし「過保護」と言うほど、子供に構っているでしょうか。温かく見守るのと同じくらい、甘えてきたら受け入れることは小学校期においてとくに大切です。

●ワンポイント・アドバイス

お話がしっかり聞ける子は、生活態度もよく学習意欲も高い。大人も子供の話面倒がらずに最後まで聞きましょう。

**Q** 小学2年の娘が幼稚園児の弟に意地悪をして、泣かせます。

**A** まず娘さんの気持ちを満たしてあげましょう。

下の子に優しくしなくてはと思っても、自分の気持ちがどうにもならないのです。でも、そんな感情をそのまま受け止めてもらえたら、落ち着きを取り戻します。お母さんで心を満たし

たなら、弟さんにもきつと優しくできるはずですよ。時には娘さんだけ外に連れ出し、お母さんと楽しい時間を持つてみてはどうでしょうか。

「まずお姉ちゃんからね」とか「さずがお姉ちゃん」と、上の子の自尊心を満たしてあげるように接すると、親の愛情が上の子から下の子へ流れやすくなるでしょう。